

みんな笑顔

別海町立別海中央中学校

保健通信 NO-044

平成 28 年 3 月 9 日

文責 鶴田 佐和子



3月に入りました。

気が付くと夕方遅くまで明るくて、陽が長くなりました。

ここ数日は暖かな朝です。

高校入試を終えた3年生は安心したように、穏やかな顔で、中学校生活最後の一週間を送っています。

全学年通じて、風邪症状を訴える人は確実に減っていますが、中には高熱を出し、インフルエンザと診断されている人もいます。

卒業式には全員が笑顔で出席して、三年生の晴れやかな姿を見守ってほしいと思います。当日はお天気が良い事を祈りましょう。



あの日から5年

明後日の3月11日で東日本大震災から5年が経とうとしています。当時は卒業式前の準備をしていたのを思い出します。

家族や家を失った方、いまだに行方不明の方や、仮設住宅に住んでいる方、自分の生まれ育った故郷に戻れない方、日本全体に与えた悲しみと影響は計り知れません。

震災の後、避難所となった学校で混乱と悲しみの中、行われた卒業式で読まれた答辞は心に迫るものがあります。

同じ世代の被災者がこの災害をどう受け止め、どう考え、どう決意したのか、同じ世代として皆さんにも感じてほしいと思います。

裏面に全文を載せましたので読んでください。

(紙面の都合で段落をつなげてあります。)

卒業式には、ハンカチとティッシュを忘れずに というライン

卒業式泣くかも(汗)

いいじゃん、泣いても

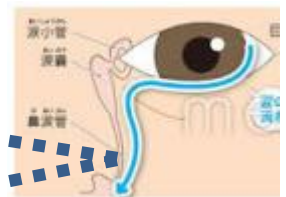
涙だけならいいけど、鼻水も出るから困るし

ハンカチで鼻水かめないしね

そういう問題じゃないし。でも、なんで泣いたら鼻水まで出るわけ？

涙の出る部分が鼻の穴につながっているからね

涙がここを流れて鼻水になるのだ



そうなの？ 泣いた時に出る鼻水は涙なんだ。鼻も泣いている？！

目と鼻を潤しているのだから人の身体って良くできてるね。

同じ液体なのに、目から出れば涙と言われてきれいなのに、鼻に流れたら鼻水っていわれて・・・差別だ。

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、わたくしたちの為に、卒業式を挙行していただきありがとうございます。ちょうど、十日前の三月十二日、春を思わせる暖かな日でした。

わたくしたちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を、五十七名揃って巣立つ筈でした。前日の十一日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に、思いを馳せた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名づけられる、天変地異が起こるとも知らずに・・・

階上（はしかみ）中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていたわたくしたちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、わたくしたちから大切なものを、容赦なく奪っていききました。

天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は、十四時四十六分を指したままです。でも、時は確実に流れています。

生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事が、これからの、わたくしたちの使命です。

わたくしたちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごして下さい。

先生方、親身の御指導、ありがとうございました。先生方が、いかにわたくしたちを思って下さっていたか、今になってよく分かります。

地域の皆さん、これまで様々な御支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これからわたくしたちが歩んでいく姿を見守っていて下さい。

必ず、よき社会人になります。

わたくしは、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表 梶原 裕太